

KTK

NO. 88

後援会費郵便振替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

編集 集 あらぐさ後援会
編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会
〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道 42-3
TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215



パワー全開！
歌って
踊って

「いつも、「あらぐさ」に新しい職員を迎えました。「デイセンター2」と「ワークセンター」の利用者さんが開いた「歓迎会」のひとこまでです。
みんなで、したいことを出し合い、
鈴と木琴で演奏する楽器グループ、
AKBの『恋するフォーチュンクッキー』を歌い踊るグループ、ふなっしーの衣装をつくって踊るグループ、ZARDの歌を熱唱するうたごえ同好会のみんな、そして『夜桜お七』の舞踊をあでやかに(?)舞う人・・・。
盛りだくさんの出し物の最後は、『世界の国からこんにちは』の歌にあわせてみんなで握手をして、フィナーレとなりました。

「手しごと」頑張ってます

作品を通じて 市民のみなさんと交流

十一年目の「創」——テーマは「キッチン」

「創XⅪ〜えがおの手しごと展〜」を、2月16日〜18日の3日間、長岡京市立産業文化会館で開催し、大勢の市民の皆さんにお越しいただきました。あらぐさ福祉会が無認可の時代から始まり、今年で11回目となりました。

日々の活動の中で、私たちが大切にしている利用者さんの生産活動や創作活動の、1年の集大成にふさわしいものによくと、担当者が議論を重ねて準備をすすめました。今年のテーマは「キッチン」になりました。

当日会場に並んだ作品は、次のようなものです。

大きな物では、藍染めのエプロンやランチヨンマットにカフェカーテン、小さい物では、ビーズやフェルトで作られた各種コースターや鍋敷き、鍋つかみ、包丁カバー、箸置き、つつわ、マグネット、スリッパ等です。

カラフルで可愛い、個性的でありながらも実用性を併せ持つようになった、「キッチン」の作品達を、会場の中央、手作りの台所セットを据えた特設コーナーに展示することができました。

利用者さんは、作品づくりとあわせて、近くの商店にポスターを貼らせていただくお願いに行ったり、案内ビラを地域に配る活動にも取り組み、当日を迎えました。2市1町の広報誌や京都新聞（洛西版）に紹介記事が掲載されたこともあり、初日から、たくさんのお客様でにぎわいました。また、DMを片手に毎年訪れていただくピーターさんもおられ、たいへん感謝しています。

「さきり織り製品やフェルト製品を指さして、「こつやつつ作っているのですか?」と熱心



に尋ねられる方や、「フェルトのつぶつぶが可愛いですね」と言っていた方、そして、「年々パワーアップしていますね」「かわいね、すごいね、頑張っているのだね」「アイデアが良いですね」など、利用者、職員ともに励みになる感想をたくさんいただくことができました。

作品を実際に見て、手に取っていただくことで、市民の皆さんと作品を通じて交流する機会を持つことができましたように思います。次回も、「毎年、新しい展示で楽しいです」と

の感想に伝えられるよう、これからの日々の活動に、利用者さんとともに頑張っていきたいと思っております。

ブランド名付けて やうに地域の中へ

デイーのカタログ作成

利用者さんが取り組む和紙やフェルト、ビ



ーズや木工、染めなどの活動をいかに充実させ、個性あふれる作品を、どのようにすれば使っていただけの作品に仕上げられるか——こんなことを担当者が話し合う「クラフト研究会」を毎月開いています。ここで話し合った内容や出し合ったアイデアを、実践に生かすことにしています。

「デイセンター」では、この研究会での試行錯誤が実を結び、数々のヒット作品が生まれました。

アイロンビーズをワイヤーに通してつくる「花火コースター」、手漉き再生和紙にイラストを印刷した「和紙封筒」、ヤスリ掛けした木片に焼印を施した「ミニシャルストラップ」、スマホに対応し、より小さく愛らしくなった「ばぶばぶあおむしのストラップ&イヤホンジャック」等が人気を集めています。

このような作品を「多くの人に知ってもらいたい」「統一感のある、ブランドイメージで打ち出してみたい」というだろうか。「注文や販路の開拓につなげたい」といった思いが生まれ、その具体化をすすめています。

まず、「デイセンター」の製品のブランド名は、職員による「ソノペの結果、「テキテキの旅」に決まりました。



雨のしずく「一滴」(テキ)「のよう」に、初めは一滴一滴だったものが土にしみ込んで、水となって大地に広がっていくように、利用者さんの作る一つひとつの作品が、人々の間に広がり、旅をしていって欲しい——そんなイメージが込められています。

これから、センス良く、訴求力のあるカタログに仕上げ、地域での販売の際にお客さんに渡したり、委託販売先に、作品と共に置かせていただくなど、利用者さんの作品が広く地域の中に広がることを願っています。

(松村 誠・記)

小さな種から 美しい花へ

みんなに幸せ運ぶ 花づくり大好き！

Mさんは、3人きょうだいのお姉さんです。あらぐさでは、「細紐つくり」(さをり織りのストラップ)や、お花を苗から育て、咲かせることが楽しみで頑張っています。

ボイタの訓練をうけて

「7か月検診」の時に、「なげ座り」ができてなくて、保健師さんから、股関節脱臼や発達の遅れがあることを指摘されました。お母さんも、言葉の遅れに気付いていたので、聖ヨゼフ整肢園(京都市北区)でボイタ訓練をうけて、1歳10か月で歩けるようになった。ボニーの学校や障害のある子どもの受け入れに理解があるむらさき幼稚園にも通いました。小学校は、地元校区の小学校に就学しました。担任の先生には、毎日連絡帳を書き、指導も丁寧にしていただきました。「学校の勉強がついていけない場合は家庭で何とかしますの」という条件で普通学級で学び、3年生

から6年生まで、家庭教師をお願いしました。クラスの友達も仲良しくかわり、いろいろなことをサポートしてもらいました。

楽しいことも 困ったことも

中学校も、校区の中学校には障害児学級がありませんでしたが、同じ小学校の人が多く行く校区の中学校の普通学級にしました。ここでも担任の先生に恵まれ3年間同じ先生に担任してもらいました。その先生が顧問のテニス部にも入りましたが、ボールが学校の外に出てしまい、ボールを探したのですが、見つからなかったためか、そのまま戻らず、大騒ぎしたことがあります。Mさんは、みんなが探していることに気付いていたのですが、「ここにいます」が言えなかったようです。美術の男の先生に憧れ、下校時には職員室に寄って「さようなら」と挨拶して帰るのが習慣になりました。優しくしてもらって、嬉

しくなり、楽しく通学しました。

中学校を卒業して、高校卒の資格も取れる大阪の専修学校に入學し、そのまま付属の専門学校に進学しました。学校がある大阪の野田まで一人で通学しました。



はじめの頃、一人で通学の練習をしていて、JR環状線で「各駅停車の駅なので」乗ってはいけない」と教えていた快速電車に乗ってしまいました。お母さんは、別の車両に乗っていたのですが見失ってしまい、夜中の12時頃まで見つかりませんでした。

駅の構内アナウンスを何度もしてもらい、Mさんもそのアナウンスを聞いたのですが、自分から名乗り出ることが出来なかったようです。

学校の宿題の家庭科の縫物の作品など、母子で仕上げました。

働くこと 自立への挑戦

20歳で専門学校を卒業して、進路を考える時期となり、行くところがなく困っていたとき、むらさき幼稚園へ出かけたら「週に1、2回ならボランティアで、子供達と遊んでくれたらいいよ」と言っていたきました。

しかし、2か月ほど経って、気持ちの負担が大きく、通えなくなりました。困りきって、幼稚園の前で1日じっとしていたこともありました。

そんな時、就学前にお世話になった先生からリトミックの教室を紹介され参加しました。リトミックのメンバーは、「グループホームをしたい」と思っておられる方々で、グループホームの入居のお誘いも受けました。「本人が嫌がるので無理かな」と思いましたが、リトミックに通う間に「今日は1晩泊まってみる?」と緩やかなお誘いから、Mさんもグループホームに行く気持ちになりました。

親同士の食事会の時に、「子供のために、療育手帳や障害年金は必要!」という周りのお母さんに勇気づけられて、手帳と年金の手続きをしました。



さをりで長く織ったMさんの「細紐」は、ストラップに仕上げられます。

グループホームに入居しても日中の生活をどうするかが問題となり、「あらぐさ」を見学して通所を決めました。

グループホームは、女性ばかり4人が暮らしています。ホームの目標は、「生活の自立が出来るように」ということで、調理、洗濯など、少しずつ取り組んでいます。褒めてもらいたいという気持ちがあって、すすんで働くことも多いようです。

「あらぐさ」でもらう給料と、年金や行政から出るグループホーム家賃補助を合わせると、グループホームの生活に必要な費用を払っても、貯金やおこづかいもあるという生活が出来ているようです。

お母さんのねがい

Mさんは歌が好きで、小学校3年生の頃から

ら地域の「青少年合唱団」に入り、20歳まで楽しく参加しました。長岡京市の公サ連の発表会にも出場しました。

映画も好きで、最近では、お母さんと2人で高槻の映画館で「アナと雪の女王」を観ました。とっても面白かったそうです。

お母さんは、Mさんのコミュニケーションの問題を感じています。

出来なくて困った時、自分から言葉を出して、伝えることが出来るようになってほしい。嫌なことは嫌と言えるようになってほしい。分からないことは、自分で聞けるようになって欲しい。少しずつコミュニケーションが出来るようにと願っています。

お母さんは、女性ばかりのトレーニンクセンターに出掛けています。家事や介護など忙しい毎日ですが、トレーニンクをしている時が一番ほっとする時間で肩こりも解消しています。

お父さんは、土曜日曜にMさんといっしょに散歩をして、運動不足の解消と、Mさんとのコミュニケーションをはかっておられます。

(取材／前田幸子・真殿尊子)

「あらぐさ通信」 読者の皆様から ひとこと

ありがとうございました

皆さまの投稿をお待ちしています。
別紙用紙をご活用ください



いつも興味深く、拝見しています。

こちらの息子は、あらぐさに通所しているわけではなく、
のですが、職員さんの生の声はなかなか聞けないので、
職員さんの声はリアルな姿を想像するのに役に立ちまし
たし、養護学校時代を知っている利用者さんの現在の日
々の紹介は懐かしい感じがしたり、余暇の過ごし方は、
我が息子の過ごしごう方の参考になります。これからもし
ろんなリアルな情報を楽しくみてほしいです。

(さゆきさん)

早いもので通所より3年が過ぎ、今では、花ノ木
ごますっかの慣れ、日々過ごしています。今は、あ
らぐさ通信が届くのを心待ちにしています。当時は
「あらぐさ」と言葉に出したり、胸の内を思ったび
に「しみぬく」ものがあり、親子共々「きつと基孝
も・・・」何ともおびしい、せしない想いが一年
ぶりに続きました。

しかしながら、施設での生活も本人なりに適応し
ていき、今更には、あまり変化のない日常（あ
らぐさ時代と比べ）が日常になりました。年2回の
外出活動が親子にとっても大きな楽しみでした。

障害者を取り巻く環境も、福祉の施策も厳しくな
る昨今ですが、あの劣悪な環境の中から、みんなの
笑顔を支えられ現在に至ったあらぐさの事ですから
第一のつらい開所に向けても展望がひらける事
でしよう。微力ながらの応援をさせていただきます
です。

(元あらぐさ通所者 宋基孝さんのお母さん)

あらぐさと私

現役時代は仕事一筋、定年後は趣味中心の生活を送っていましたが、年々人との交わりの場が少なくなることも外出がおっくうになり、日々の生活の充実感が失われてゆくように感じていました。

障害福祉センターあらぐさの
ボランティアさん
林 英夫 さん



5年前(78歳)、何かお役に立つことはないかと、パンプキオの総合生活支援センターへ相談に行ったところ「ボランティアを受けられる年齢なのでまず無理でしょうね」とのことでした。「趣味の音楽でなにかあれば」と念のためお伝えしておいたところ、「あらぐさ」から声がかかり、平成21年7月、はじめてお邪魔させていただきました。

介護についての教育を受けたことのない私が、中途半端にお手伝いができるわけもなく、音楽でお手伝いといっても限られたことであり、何をすべきかと暗中模索しつつ通ってまいりました。徐々に内部の様子がわかってくるにつけ、食器洗い、洗濯物の処理、掃除といった仕事があることがわかり、それをさせて頂くことにして今日に至りました。

四季の景色を楽しみながら片道25分の道を週2回歩き、通所されている方々とスタッフの方々との交流の姿を拝見しつつ、1時間程度の軽作業を楽しくさせて頂いております。

現在83歳ですが、この齢になつて、自分の健康造りと張り合いの場が与えられていないことを大変ありがたく思い、また手術で入院した時には、皆様から暖かい励ましのメッセージを頂くなど感激いたしました。

一日でも長くお伺いできることを心掛けたと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。



○あらぐさ後援会の2014年度総会が、6月21日に障害福祉センターあらぐさで開かれました。

○きょうされん第37次国会請願署名・募金のご協力ありがとうございました。署名4,243筆、募金96,098円が集まりました。

——いづれも、詳細は次号で報告させていただきます。

あらぐさ スナッフ。



2005年の開所記念に植樹した門前の桜の木は、10年を経て、今年も見事な花を咲かせてくれました。

この季節になると、桜の木の下は、グループごとにお花見をしながらのランチやティータイムを過ごしたり、ゲームを楽しむなど、みんなの憩いの場となります。

夏を迎え、木々の葉や竹林の緑が色濃くなり、強い日差しからみんなを守ってくれています。

〔4月〕

あらぐさ後援会
加入・募金
ありがとうございました
1月10日～3月31日
敬称略・順不同

芦田 幸子	中 小路 忠也	生路 智子	中 城 信幸	池田 芳子	西 村 久美子	市瀬 美学	西 山 俊太郎	井上 久美恵	野 崎 清夫	今西 正恭	原 木 康子	植田 健二	原 木 とし子	尾 谷 悦代	原 田 文孝	小野 照余	福 島 厚子	垣内 千鶴	福 見 隆子	河村 栄美子	松 島 朱美子	木村 吉昭	松 村 英誠	桜田 喬子	松 本 朱里	塩 満 喬子	松 浦 朱葉	清水 富子	三 浦 美津子	杉 谷 泰子	南 下 千代子	高橋 泰子	八 木 千代子	谷口 奈緒子	山 中 啓三子	丹野 かほる	山 根 信子	丹野 直次	吉 永 和子	東宮 靖武	吉 永 和子	乙訓 手をつなぐ親の会	日本 基督教団 西が丘教会	バーバー パパ 三田 道廣	ぱんだ 企画	ペーカリー セルフィーク	村 上 泰之	有限会社 スマイル ケア	代表 取締役 荒井 祐子	匿名 5名
-------	---------	-------	--------	-------	---------	-------	---------	--------	--------	-------	--------	-------	---------	--------	--------	-------	--------	-------	--------	--------	---------	-------	--------	-------	--------	--------	--------	-------	---------	--------	---------	-------	---------	--------	---------	--------	--------	-------	--------	-------	--------	-------------	---------------	---------------	--------	--------------	--------	--------------	--------------	-------

2014年度 後援会費納入とあらぐさ支援募金ご協力をお願い

今年度も、後援会の更新の時期がまいりました。同封の振替用紙にて会費の納入をよろしく願いいたします。あわせて、あらぐさの施設整備を支援するための「あらぐさ支援募金」にもご協力をお願いいたします。

後援会費（個人1口 1,000円 団体1口 2,000円）

あらぐさ支援募金（1口 1,000円）

- * ご入金と入れ違った際は、なにとぞご容赦ください。
- * なお、後援会費・支援募金には「KTKあらぐさ通信」誌代が含まれております。

あらぐさ後援会



1992年6月5日 第3種郵便物承認（毎月1回25日発行）2014年7月4日発行
KTK増刊通巻第4159号 発行所 京都障害者団体定期刊行物協会
〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル中之町519 京都社会福祉会館4階
京都難病連内 発行人 高谷修 頒価50円（購読料は会費に含まれています）

KTK
あらぐさ通信